

## 滞在型観光へ転換図る高千穂町

宮崎県北部、大分、熊本県に隣接する高千穂町には全国有数のパワースポット・高千穂峡など多くの観光名所がある。人口約1万2千人の町にコロナ前は年間約140万人の観光客が訪れており、町はアフターコロナを見据えた観光戦略見直しを進める。

町によると高千穂峡に立ち寄るだけの「通過型観光」による経済機会損失や一極集中による渋滞発生が課題という。電動アシスト付きスポーツ自転車（Eバイク）導入や「プレミアムツアー」の商品開発、高千穂ブランド発信サイト制作などで「滞在型観光」へ転換を図る。

モデルは岩戸地区。神話の舞台となった天岩戸神社や天安河原など多くの神社があり、各集落では神楽が伝承される。岩戸川両岸には、日本の棚田百選「栃又棚田」「尾戸の口棚田」の絶景も広がる。

アップダウンの多い地区を気ままに周遊してもらおうと坂道でもサイクリングを楽しめるEバイクのレンタル事業に着目。昨年12月から2カ月間の実証実験で約40人が体験した。アンケートには「小学生の息子が楽しんで乗っていた」「起伏でも楽に登られた」「快適に5社巡りができた」などの感想が寄せられた。町は「農家カフェや神社巡りを楽しんだり、先人が苦労して築いた棚田や山腹用水路も間近に感じたり、車とは違った体験が得られる」と手応えを口にする。

客単価の高いプレミアムツアーも考案。有識者や料理研究者らを招いて意見を聞きながら企画をブラッシュアップさせ、今年1月には全国の旅行会社や鉄道、バス事業者ら8人を招いて体験ツアーを行った。専属ガイドの案内で日向神話や農業と神楽の関わりを学び、夜神楽を鑑賞しながら郷土料理や棚田米を味わった。ストーリー性のある観光は好評で「点在する地域資源を連続して見せることで、地域に息づく文化と暮らし、信仰を深く理解でき、感動が大きくなる」と同町。

さらに文化や自然の魅力、人々の暮らしなどをPRするウェブサイトも2月に公開した。URLは「<https://takachiho-cho.com/>」

コロナ禍で全国の観光地は大きな打撃を受けている。高千穂町の取り組みに期待したい。

宮崎日日新聞社 東京支社報道部長 寺原達也



郷土料理や棚田米を味わう体験ツアー参加者（高千穂町提供）



実証実験で使用したEバイク。町は「車とは違った体験が得られる」と導入に手応えを感じている。（高千穂町提供）